

科目	単位	時間	履修学年	講師名
基礎看護技術Ⅶ (与薬)	1	30	2	
ねらい	診療に伴う技術である治療・処置技術、与薬の技術を習得する			
回数	授業内容			授業形態
1回目	科目のガイダンス (ねらい 講義・演習の進め方と学習方法) 与薬の基礎知識：剤型と吸収経路と与薬に関わる看護師の役割			講義
2回目	与薬の種類と方法①：経口与薬について 経口与薬の種類と服用時間と適応 経口与薬の援助の実際			講義
3回目	与薬の種類と方法②：吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬の実際			講義
4回目	経口与薬の演習			演習
5回目	注射の基礎知識①：注射法 注射の方法と種類 注射筒と注射針			講義
6回目	注射の基礎知識②：注射法の実際 皮下・皮内注射筋肉注射の実際			講義
7回目	注射の準備： 注射針と注射針の準備 →アンプルカット →薬液の吸い上げ (アンプル・バイアル) 6Rの実際			演習
8回目	筋肉内注射 (ホッホシュテッター クラークの点 4分3分法 三角筋) の注射部位を根拠とともに確認			講義
9回目・10回目	筋肉内注射 (三角筋) の正しい注射部位と技術の確認			演習
11回目	静脈内注射：概要 注意点 注射部位の選択とその根拠 手順 留意点			講義
12回目	点滴静脈内注射 (輸液ルートの準備 輸液速度の調節 静脈内注射の刺入 ・固定の実施) 安全・安楽の視点 6Rの実施			演習
13回目	輸液ポンプ・シリンジポンプ・3方活栓の取り扱いの実際			演習
14回目	輸血管理：輸血の基礎知識 (輸血の種類と目的) 援助の実際と留意点			講義
14.5回目	包帯法の実践：包帯の名称・種類・創部の固定方法			
15回目 (45分)	終講試験			試験
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護学技術Ⅱ (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)			
評価方法	筆記試験 (1時間【45分間】：100点)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な知識・技術を根拠とともに身につけていくことが重要です。6Rという言葉を経験の標語のように覚えるのは意味がありません。正しく理解し実践できるよう学習し、患者に安全な医療・看護を提供できる基礎的な能力を身に付けるようしましょう。 ・基礎看護技術Ⅴ (感染防止・無菌操作) の知識、技術の習得が前提になります。清潔・不潔の区別を理解し、実践できるように練習しましょう。 			

科目	単位	時間	履修学年	講師名
臨床看護総論	1	30	2	
ねらい	健康障害を持つ対象の様々な経過及び治療に伴う看護を理解する。			
回数	授業内容			
1回目 2回目 3回目 4回目 5回目 5.5回目 (45分)	【救急看護】 1. 救急法を必要とする患者の看護 1) システムについて・救急看護とは 2) 救急処置法について 3) トリアージについて 4) 集中治療を受ける患者の看護 5) 一次救命処置 6) 救急処置法まとめ			講義 講義 講義 講義 演習 講義
1回目 2回目 3回目	【創傷処置】 2. 創傷処置/創傷ケアを受ける対象者の看護 1) 創処置を必要とする患者の看護 2) ポジショニング 3) 創傷の処置と看護			講義 演習 講義
1回目 2回目	【化学療法】 3. 化学療法を受ける対象者への看護 1) 化学療法の特徴 2) 化学療法を受ける患者・家族への看護			講義 講義
1回目 2回目	【放射線療法】 4. 放射線治療を受ける対象者への看護 1) 放射線療法とは 2) 放射線療法を受ける患者・家族への看護			講義 講義
1回目 2回目	【医療機器】 5. 医療機器の原理と実際 1) ME 機器とは 2) ME 機器を使用するための基礎知識 3) ME 機器(輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器)			講義 講義
15回目 (45分)	終講試験			試験
教科書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学④ 臨床看護総論 (医学書院)			
評価方法	筆記試験 (1時間 [45分間]: 100点) : 27点+13点+13点+7点+13点+14点+13点			

科目	単位	時間	履修学年	講師名
看護研究	1	30	2	
ねらい	研究の基礎を学び、看護実践を科学的に展開する基本的知識を身につける。			
回数	授業内容			授業方法
1回目	授業計画の概要について 看護研究とは 看護研究の意義について			講義
2回目	看護研究のプロセスについて 文献探索とクリティークについて			講義
3回目	看護研究のデザインと研究手法			講義
4回目	具体的な研究の進め方			講義
5回目	具体的な研究の進め方			講義
6回目	研究倫理			講義
7回目	研究論文・抄録の書き方			講義
8回目	グループワークによる事例の文献検索と抄録作成			演習・PC室
9回目	発表に向けての準備			演習・PC室
10回目	5Gによる事例発表			発表
11回目	5Gによる事例発表			発表
12回目	キーワードに基づく文献検索(テーマ選定、文献検討) 論文クリティーク			演習・PC室
13回目	研究計画書の作成(各自作成)			演習・PC室
14回目	ケースレポートのまとめ ケースレポートを研究へ			講義
15回目	講義1時間(45分) 終講試験45分(後日予定)			講義
教科書	高橋百合子監修:看護学生のためのケース・スタディ、メディカルフレンド社			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・JJN SPECIAL 看護研究の進め方 論文の書き方第2版 早川和生編 著 医学書院 ・楽しくなる看護研究 上野栄一他著 メヂカルフレンド社 ・看護研究こころえ帳 第2版 李 節子著 医歯薬出版株式会社 			
評価方法	筆記試験 (1時間【45分】:100点) ・ 課題提出			
備考	8,9,12,13回目は情報処理室での授業を行う			

科目	単位	時間	履修学年	講師名
暮らしを支える看護Ⅱ	1	30	2	
ねらい	地域・在宅看護の対象と看護活動の基盤となる概念を理解して、地域における看護活動につなげる。地域に暮らす人々の健康を守る看護について、深く理解し、看護活動につなげる。			
回数	授業内容			
1回目 ()	1. 在宅看護の目的と特徴 (1) 在宅看護の目指すもの (2) 在宅看護が提供される場			講義
2回目 ()	2. 在宅看護における看護師の役割 (1) 超高齢化社会の進展と地域包括ケア (2) 対象者のケアニーズに応じた在宅看護の提供 (3) 在宅看護における看護師の倫理			講義
3～4回目 ()	3. 在宅看護の対象者 (1) 年齢・疾患・障害・在宅療養別からみた特徴			講義
5回目 ()	4. 対象者としての家族 (1) 在宅看護の対象者としての家族 (2) 家族のとらえ方と看護師のかかわり (3) ケアマネジメントと社会資源の活用			講義
6～9回目 ()	5. 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用 (1) 訪問看護制度の創設と発展経緯 (2) 在宅看護にかかわる法令・制度 (3) 保健・福祉制度（介護保険・障害者福祉他） (4) 訪問看護の制度とサービスの提供 (5) 予防活動と看護師の役割			講義
10～14.5回目 ()	6. 健康行動理論等の理解と活用 (1) 健康信念モデル (2) 自己効力感 (3) 変化のステージモデル (4) ソーシャルサポート (5) ストレスとコーピング			講義・演習
15回目 (45分)	終講試験			試験
教科書	ナーシンググラフィカ 在宅看護論①	地域療養を支えるケア	(メディカ出版)	
	ナーシンググラフィカ 在宅看護論②	在宅療養を支える技術	(メディカ出版)	
評価方法	筆記試験 (1時間【45分】: 100点 : 60点(25分) + 40点(20分))			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
家族看護論	1	15	2	
ねらい	家族の持つ機能を理解し、家族全体を視野に入れた関わりについて理解する。基本的な家族理論を理解することで、家族に働きかけ、問題解決を図っていく技法について学ぶ			
回数	授業内容			
1回目	1. 家族の力を引き出す家族看護 家族とは ライフサイクルと家族 コミュニティと家族			講義
2回目	2. 家族構造とは ジェノグラムとエコマップの描き方 家族機能 家族のセルフケア機能 現代家族とその課題 P63			講義
3～4回目	3. 家族を理解するための理論 家族発達理論 家族システム理論 家族ストレス対処理論			講義
5回目	4. さまざまな家族アセスメント フリードマンとハンソンのアセスメントモデル カルガリー家族看護モデル 渡辺式家族アセスメントモデル			講義
6～7回目	5. 家族看護学の実践事例 慢性期小児患者の家族看護 精神疾患患者の家族看護 など			講義
7.5回目 (45分)				試験
教科書	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版) ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (メディカ出版)			
評価方法	筆記試験 (1時間【45分】: 100点)			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
在宅療養を支える看護 I	1	30	2	
ねらい	在宅看護介入時期別の特徴について学び、事例をもとに必要な援助技術について学ぶ。			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	1.療養者の日常生活を「生活行為」として総合的に捉える	講義 グループワーク		
2回目	1)必要な介助を見極めるための動作分析について考える 2)訪問看護師に求められるコミュニケーション			
3回目	2.導入期の訪問看護 1)訪問看護の対象と利用できる制度 2)加算条件の違い	講義		
4回目	3.事例を通して活動制限のアセスメントと生活行為への支援	講義・演習		
5回目	1)ALS療養者の在宅看護(難病)			
6回目	(1)在宅酸素療法			
7回目	(2)在宅人工呼吸療法(HMV)・ (3)NPPV(非侵襲的陽圧換気療法) (4)排痰法			
8回目	2)食生活、嚥下に関する在宅看護技	講義・演習		
9回目	(1)摂食・嚥下障害 (2)口腔ケア (3)在宅経管栄養法 (4)在宅中心静脈栄養法 HPN			
10回目	3)頸髄損傷療養者			
11回目	(1)褥瘡の予防とケア(ストーマケア含む) (2)トランスファー・			
12回目	(3)おむつ交換・膀胱留置カテーテルの管理 4)日中独居の認知症療養者 (1)認知機能のアセスメント方法と援助	講義 講義 講義 講義		
13~14回目	5)在宅におけるエンドオブライフケア (1)終末期のアセスメント、本人や家族の心のケア			
14.5回目 (45分)	(2)疼痛緩和のアセスメントと疼痛コントロール (3)グリーフケア	試験		
15回目	終講試験			
教科書	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア(メディカ出版) ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術(メディカ出版)			
評価方法	筆記試験 (1時間【45分間】:100点)			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
在宅療養を支える看護Ⅱ	1	30	2	
ねらい	在宅で療養している様々なライフステージ・背景を持つ対象の事例をもとに訪問看護の実際を学ぶ。			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	1. 地域包括ケアシステムについて 2) ケアマネジメントの方法	講義		
2回目	2. 「難病」の基本的な知識	講義・演習		
3回目	1) 難病とは 2) 主な難病の種類と原因・症状	講義・演習		
4回目	3. 老々介護であるパーキンソン病療養者の看護	講義・演習		
5回目	1) 在宅における ADL 低下予防と再発防止のための看護と公的サービス	講義・演習		
6回目	4. 脳梗塞後遺症で高次脳機能障害のある療養者の看護	講義・演習		
7回目	1) 移動・移送の導線のアセスメント	講義・演習		
8回目	2) 生活環境の安全と工夫 3) 住宅改修の一例	講義・演習		
9回目	5. インスリン自己注射を開始する糖尿病療養者の看護	講義・演習		
10回目	1) 薬剤の管理と指導	講義・演習		
11回目	6. 在宅療養を開始する重症心身障害児の看護	講義・演習		
12回目	1) 家庭環境と家族の状況のアセスメント	講義・演習		
13回目	2) 在宅療養で利用できる小児のサービス 3) 呼吸理学療法と一時的吸引	講義・演習		
14回目	7. 生活の自立を目指す精神障害者の看護	講義・演習		
14.5回目 (45分)	1) 生活のアセスメント 2) 障害者支援法と公費負担医療について 3) 障害者手帳について	講義・演習		
15回目 (45分)	4) 生活自立のためのケアと公的サービス 終講試験	試験		
教科書	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版) ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (メディカ出版) 公衆衛生がみえる (メディックメディア)			
評価方法	筆記試験 (1時間【45分間】: 100点)			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
在宅療養を支える看護Ⅲ	1	30	2	
ねらい	在宅で療養している対象の健康問題に対して、模擬患者の看護計画を作成し、看護の実際を学ぶ。			
回数	授業内容	授業方法		
1・2回目	1. 在宅で人工呼吸療法をする筋委縮性側索硬化症患者の看護・事例紹介 ・事例を分析するための必要な情報収集	講義		
3回目	2. 訪問看護記録1・2に沿って情報分析	個人ワーク		
4・5回目	3. 訪問看護記録3に沿って情報整理・分析	個人ワーク		
6・7回目	4. 訪問看護記録4に沿って社会資源の整理・分析	個人ワーク		
8回目	5. 問題点・看護目標について			
9・10回目	6. 訪問看護記録1～4に沿って情報分析	グループワーク		
11回目	7. 訪問計画・援助立案			
12・13回目	8. グループ発表	グループワーク		
14回目	9. 看護過程自己評価・実習にむけて	講義		
15回目	10. まとめ			
教科書	ナーシンググラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版) ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (メディカ出版)			
評価方法	筆記試験 課題提出 100点			
備考	<p>・筋委縮性側索硬化症患者の事例を通して、訪問看護記録に沿って展開します。対象の疾患や症状だけではなく、療養者の療養環境や生活背景、家族の介護状況、社会資源などから対象が望む在宅療養を継続していけるよう対象を捉えることが必要です。演習では事例から抽出した看護問題・看護計画を訪問看護の一場面を想定して発表します。</p> <p>・事前学習、テキスト、授業資料など必要な資料は毎回持参して下さい。</p> <p>・課題提出については期限も評価の対象です。期限を守り提出してください。</p>			

科目	単位	時間	履修学年	講師名
成人看護援助論 I	1	30	2	
ねらい	生命の危機状態にある対象および家族の特徴を知り、その状況に応じた看護の役割と方法を学ぶ。生命の危機状態にある対象の観察や看護判断、患者の状態に応じた看護について理解する。			
回数	授業内容			授業方法
1回目	生命の危機状態にある対象の特徴 周手術期看護 外科看護の役割と課題			講義
2回目	手術侵襲と生体の反応 創の治癒過程と創傷の保護 外科的治療の適応：呼吸管理・体液管理・栄養管理・輸血療法			講義
1回目	外科的治療を要する疾患・症状			講義
2回目	麻酔法：種類と適応、合併症			講義
3回目	手術前患者の看護 一般的な術前検査 手術の説明と同意 手術に向けた患者教育・指導 術前の具体的援助 手術当日の看護			講義
4回目	術中の看護 手術室の安全管理 入室前の看護 入室時の看護 麻酔導入時の看護 手術中の看護と看護師の役割 手術終了時の看護			講義
5回目	手術後の回復を促進するための看護 患者のアセスメント 環境を整える 早期離床の促進 疼痛管理 栄養管理 ドレーン管理			講義
6回目	術後合併症の発生機序 起こりやすい術後合併症の予防と発症時の対応			講義
6.5回目 (45分)	集中治療を必要とする対象の看護 集中治療における看護の役割 集中治療における看護の実際			講義
1回目	4. 生命の危機状態にある対象への看護の実際 1) 虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)患者の看護			講義
2回目	2) 心不全患者の看護			講義
3回目	3) 循環器疾患看護 (大動脈解離・不整脈)			講義
1回目	4) 消化器疾患患者の看護			講義
2回目	5) 大腸がん患者の看護 ①手術前の看護 ②手術後の看護			講義
3回目	6) 胃がん患者の看護 ①手術前の看護 ②手術後の看護			講義
15回目 (45分)	終講試験			試験
教科書	系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 (医学書院) 高齢者と成人の周手術期看護 術中/術後の生体反応と急性期看護 (医歯薬出版株式会社) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器、			

評価方法	筆記試験（1時間[45分間]：100点） ：50点+10点+20点+20点
備考	授業内容は、1年次の解剖生理、病態生理の知識も必要とします。授業ごとにしっかり復習をし、理解して次の授業に臨むようにしてください。

科目	単位	時間	履修学年	講師名
成人看護援助論Ⅱ	1	30	2	
ねらい	リハビリ期にある対象とその家族の特徴を知り、身体機能の障害や喪失が成人の心身に与える影響を学ぶ。障害の改善や残存機能の拡大、変化した生活を再構築するための援助を理解する。また、家族支援のあり方、社会資源の活用方法を理解する。			
1回目	1. 第1章 A. リハビリテーションの定義と理念 P2~7 C. 疾病・障害・生活機能の分類 P15~17 生活機能分類 (ICF) P17~22			講義
2回目	D. リハビリテーションの分野 P22~29 E. リハビリテーション医療の提供			講義
2.5回目 (45分)	2. 第2章 A. リハビリテーション看護の定義と専門化 P40~ B. リハビリテーション看護の対象 C. リハビリテーション看護の方法 P60~85			講義
1回目	3. 生活機能障害を有する患者の看護の実際			講義
2回目	1) 脊髄損傷患者の看護			講義
3回目	①運動機能障害 ②排泄機能障害③生殖機能障害			講義
4回目	2) 脊椎疾患患者の看護			講義
	①脊髄腔造影検査 ②筋力増強機能訓練の援助			
	3) 骨折患者の看護			
	①ギプス固定 ②牽引法 ③神経障害 ④日常生活援助			
1回目	4) 脳血管障害 (脳梗塞、脳内出血) の患者の看護			講義
2回目	①高次脳機能障害 (言語機能障害) ②摂食・嚥下障害			講義
3回目	③運動障害ある患者の日常生活援助			講義
4回目	④排泄障害			講義
1回目	5) 視覚障害のある患者の看護、			講義
2回目	6) 聴覚障害のある患者の看護			講義
	7) 下咽頭疾患 (喉頭摘出)			講義
1回目	8) 女性生殖器疾患患者の看護			講義
2回目				講義
15回目(45分)	終講試験			試験
教科	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑬ 眼 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 (医学書院)			

評価方法	筆記試験（1時間【45分間】：100点） ：20点+26点+26点+14点+14点
備考	

科目	単位	時間	履修学年	講師名
成人看護援助論Ⅲ	1	30	2	
ねらい	慢性的な経過をたどる対象の特徴を知り、生活やその家族に与える影響を学ぶ。 生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする対象とその家族の看護を理解する。 さらに、セルフマネジメントができる支援を理解する。			
回数	授業内容			授業方法
1回目	【慢性期概論、血液・造血器系】 1. 慢性期における看護 1) 慢性期の特徴 2) 慢性期の患者のニーズ 3) 慢性期にある患者への看護援助			講義
2回目	2. 血液・造血器疾患患者の看護			講義
1回目	【内分泌系・膠原病】 3. 糖尿病患者の看護			講義
2回目	1) 糖尿病の症状、合併症、 社会面・心理面の理解			講義
3回目	2) 糖尿病の治療 : 食事療法、運動療法、薬物療法			講義
4回目	3) 合併症の予防と生活指導			講義
5回目	4. 甲状腺疾患・副甲状腺疾患患者の看護			講義
6回目	5. 副腎疾患患者の看護			講義
6.5回目 (45分)	6. 膠原病患者の看護			講義
1回目	【呼吸器系・腎系】 7. 慢性閉塞性肺疾患患者の看護			講義
2回目	1) 酸素療法と生活指導 2) 在宅酸素療法			講義
3回目	8. 気管支喘息患者の看護			講義
4回目	9. 腎不全患者の看護			講義
1回目	【消化器系】 10. 肝機能障害患者の看護			講義
2回目	1) インターフェロン療法 2) 硬化療法 3) 動静脈塞栓療法 4) 生活指導			講義
15回目 (45分)	終講試験			試験

教科書	系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論(医学書院) 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学④ 血液・造血器(医学書院) 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝(医学書院) 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑪ アレルギー・膠原病・感染症(医学書院) 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 呼吸器(医学書院) 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧腎・泌尿器(医学書院) 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤消化器(医学書院)
評価方法	筆記試験 (1時間 [45分間]・100点) : 60点+27点+13点
備考	

科目	単位	時間	履修学年	講師名
成人看護援助論Ⅳ	1	30	2	
ねらい	終末期にある対象及びその家族のニーズを知り、その状況に応じた看護の役割と方法を学ぶ。終末期における全人的苦痛の緩和とその人らしく生きるための看護を理解する。			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	12時間 1. 緩和ケアの現状と展望 (第1章)	講義		
2回目	2. 緩和ケアにおけるチームアプローチ (第2章)	講義		
3回目	3. 緩和ケアにおけるコミュニケーション (第3章)	講義		
4回目	4. 緩和ケアにおける倫理的課題 (第4章)	講義		
5回目	5. 医療スタッフのケア (第9章)	講義		
6回目	6. 緩和ケアに関する教育(第10章)	講義		
1回目	18時間 1. 全人的ケアの実践 (第5章)	講義		
2回目	1) 身体的ケア	講義		
3回目	2) 心理的ケア	講義		
4回目	3) 社会的ケア	講義		
5回目	4) スピリチュアルケア	講義		
6回目	2. 緩和ケアの広がり (第6章)	講義		
7回目	3. 臨死期のケア (第7章)	講義		
8回目	4. 家族のケア (第8章).	講義		
9回目(45分)		試験		
15回目(45分)	終講試験			
教科書	系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院)			
評価方法	筆記試験 (1時間【45分間】: 100点) : 40点+60点			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
成人看護援助論V	1	30	2	
ねらい	成人期にある対象の健康問題に対し、模擬患者の看護計画を作成し、看護の実際を体験する。			
回数	授業内容			授業方法
1回目	演習のねらい、方法、学習の進め方について説明 演習事例紹介（大腸がん・人工肛門造設術） データベースの記載			講義
2回目	看護過程の展開：ゴードンの機能的健康パターンの11項目 （術前の情報収集）			講義・GW
3回目	看護過程の展開：ゴードンの機能的健康パターンの11項目 （情報の整理・術後合併症につながる情報のアセスメント）①			講義・GW
4回目	看護過程の展開：ゴードンの機能的健康パターンの11項目 （情報の整理・術後合併症につながる情報のアセスメント）②			講義・GW
5回目	看護過程の展開：ゴードンの機能的健康パターンの11項目 （情報の整理・術後合併症につながる情報のアセスメント）③			講義・GW
6回目	看護過程の展開：ゴードンの機能的健康パターンの11項目 （看護診断・関連図）			講義・GW
7回目	看護過程の展開：ゴードンの機能的健康パターンの11項目 （看護診断・看護目標）			講義・GW
8回目	看護過程の展開：ゴードンの機能的健康パターンの11項目 （看護計画立案）①			講義・GW
9回目	看護過程の展開：ゴードンの機能的健康パターンの11項目 （看護計画立案）②			講義・GW
10・11回目	看護計画に沿った看護の実践（術後合併症に対する看護）①②			GW・演習
12回目	看護過程の展開：ゴードンの機能的健康パターンの11項目 記録の書き方 SOAP/看護計画の評価・修正			講義・GW
13回目	看護計画の評価・修正、指導案立案			講義、GW
14・15回目	指導の実際、発表・まとめ			GW・演習
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器（医学書院） 高齢者と成人の周手術期看護2（医歯薬出版株式会社）			
評価方法	看護過程（成果物）100点			
備考	既習の解剖生理や基礎看護技術、周手術期看護の知識・技術を活用し、模擬患者で看護過程の展開を行う。疾患、病態メカニズムに加え、侵襲から引き起こされる生体反応を理解し、術後合併症を起こさないための治療と看護を学習しなおして演習に臨むこと。			

科目	単位	時間	履修学年	講師名
老年看護援助論 I	1	30	2	
ねらい	高齢者の生命維持、健康生活の維持に必要な看護技術の基礎を学ぶ。			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	1. 高齢者のヘルスアセスメント (第4章)	講義		
2回目	1) 皮膚と付属器のアセスメント	講義		
3回目	2) 循環器系・呼吸器系・消化器系のアセスメント	講義		
4回目	3) ホルモン分泌・運動器系・泌尿器系のアセスメント	講義		
5回目		講義		
6回目	2. 健康逸脱からの回復を促す看護 (第6章)	講義		
7回目	1) 発熱・疼痛・掻痒感・脱水	講義		
	2) 嘔吐・浮腫・倦怠感・褥瘡			
8回目	3. 高齢者の生活機能を整える看護(第5章)	講義		
9回目	1) 日常生活を支える基本的活動	講義		
10回目	食事排泄清潔生活リズムコミュニケーション	講義		
11回目				
12回目	4. 高齢者のリスクマネジメント(第10章)	講義		
13回目	1) 高齢者と医療安全	講義		
14回目	2) 高齢者と救命救急	講義		
14.5回目	3) 高齢者と災害	講義		
(45分)	終講試験	試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院)			
評価方法	筆記試験 (1時間 【45分間】: 100点) : 50点+50点			
備考	高齢者の特徴をとらえながら、その人らしく生活するために必要な基本技術を学ぶ科目です。1年生で履修した老年看護学概論と基礎看護技術を復習し、授業に臨んでください。			

科目	単位	時間	履修学年	講師名
老年看護援助論Ⅱ	1	30	2	
ねらい	老年期に特徴的な障害・疾病症状をもつ対象の看護について学ぶ。			
回数	授業内容			授業方法
1回目	【疾患・検査・治療を受ける高齢者への看護の展開】(10時間)			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験
2回目	1. 身体疾患のある高齢者の看護 (第6章 B)			
3回目	1) 脳卒中 2) 心不全 3) 糖尿病 4) 慢性閉塞性肺疾患			
4回目	5) がん 6) パーキンソン病・パーキンソン症候群			
5回目	7) インフルエンザ 8) 肺炎 9) 骨粗鬆症・骨折			
	2. 治療を必要とする高齢者の看護 (第7章)			
	1) 検査の看護 2) 薬物療法の看護 3) 手術療法の看護			
	4) リハビリテーションの看護			
	【認知機能障害・終末期の高齢者への看護の展開】(9時間)			
1回目	3. 認知機能障害のある高齢者への看護 (第6章 C)			
2回目	4. エンドオブライフケア (第8章)			
3回目	1) エンドオブライフケアの概念			
4回目	2) 「生ききる」ことを支えるケア			
4.5回目 (45分)	3) 意思決定への支援			
	4) 末期段階に求められる援助			
	【生活・療養の場における看護の展開】(10時間)			
1回目	5. 生活・療養の場における看護 (第9章)			
2回目	1) 高齢者とヘルスプロモーション			
3回目	2) 保健医療福祉施設および居住施設における看護			
4回目	3) 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護			
5回目	4) 多職種連携実践による活動			
15回目 (45分)	終講試験			
教科書	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	老年看護学 (医学書院)	
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	老年看護 病態・疾患論 (医学書院)	
評価方法	筆記試験 (1時間 【45分間】: 100点) : 34点+32点+34点			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
老年看護援助論Ⅲ	1	30	2	
ねらい	老年期にある対象の健康問題に対して、模擬患者の看護計画を作成し、看護の実際を体験する			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	1. 看護過程の展開 1) 事例紹介:脳血管疾患を抱えた大腿骨頸部骨折術後の高齢者	講義・個人ワーク		
2回目	2) 全体像	講義・個人ワーク		
3回目	3) 情報の分析・解釈、仮診断	講義・個人ワーク		
4回目	健康障害をもった高齢者を理解する情報整理と アセスメント	講義・個人ワーク		
5回目	4) 関連図、問題リスト ・問題点と関連因子について	講義・個人ワーク		
6回目	5) 本診断 ・#の優先順位について	講義・個人ワーク		
7回目	6) 看護目標の設定 ・目標志向型思考	講義・個人ワーク		
8回目	・長期・短期目標	講義・個人ワーク		
9回目	7) 看護計画	講義・個人ワーク		
10回目	・個別性を考える	講義・グループワーク		
11回目	2. 健康障害と加齢現象を考えた援助 (計画)	グループワーク (実習室)		
12回目	1) リハビリ期にある看護 2) 安全・安楽・自立を考えた日常生活の援助	グループワーク (実習室)		
13回目	2. 健康障害と加齢現象を考えた援助 (実践)	グループワーク (実習室)		
14回目	1) リハビリ期にある看護 2) 安全・安楽・自立を考えた日常生活の援助	グループワーク (実習室)		
15回目 (45分)	まとめ			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院)			
評価方法	・看護過程、グループワーク:100点			
備考	高齢者看護の特徴と看護過程の展開について、復習して臨んでください。 解剖生理の知識、加齢による身体的変化の特徴や、リハビリテーション期に必要な看護など、様々な既習知識を活用し、看護過程の展開と対象に合わせた日常生活援助の技術演習を行います。領域別実習に向けて、主体的に学習していきましょう。			

科目	単位	時間	履修学年	講師名
小児看護援助論 I	1	30	2	
令和5年4月1日				
ねらい	小児の特徴的な疾患、病態、症状及び検査・治療について理解し、小児期にある対象の健康障害に応じた看護を学ぶ。			
回数	授業内容			授業方法
	【疾患・検査・治療】(14時間)			
	1. 小児の代表的な疾患の理解			
1回目	1) 呼吸器疾患	2) 消化器疾患		講義
2回目	3) 腎・尿路疾患	4) 痙攣性疾患		講義
3回目	5) 血液疾患	6) 感染症	7) 小児がん	講義
4回目	8) 自己免疫疾患	9) 膠原病	10) 循環器疾患	講義
5回目	10) 循環器疾患			講義
6回目	11) アレルギー疾患	12) 新生児疾患		講義
7回目	13) 内分泌疾患	14) 先天異常		講義
	【看護】(16時間)			
1回目	2. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護	総論/第1章(P196~)		講義
2回目	3. 症状を示す子どもの看護①	総論/第5章(P344~)		ワーク
3回目	4. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	総論/第2章(P212~)		講義
4回目	5. 子どもにおける疾病の経過と看護	総論/第3章(P248~)		講義
5回目	6. 検査・処置を受ける子どもの看護	総論/第6章(P416~)		講義
6回目	7. 症状を示す子どもの看護②	総論/第5章(P344~)		ワーク
7回目	8. 障害のある子どもと家族の看護	総論/第7章(P480~)		講義
	子どもの虐待と看護	総論/第6章(P494~)		講義
8回目 (45分)	9. 症状を示す子どもの看護③(まとめ)	総論/第5章(P344~)		講義
	※部分的に演習(ワーク)を取り入れ提出物を求めることがある。			
15回目 (45分)	終講試験			試験
教科書	【小児疾患・検査・治療】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論(医学書院) 【小児看護】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学①小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院)			
評価方法	筆記試験 (1時間 [45分間] : 100点) ① 小児疾患 50点 (: 14点+7点+13点+16点) ② 小児看護 50点 (: 50点 ※うち提出物の配点含む)			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
小児看護援助論Ⅱ	1	30	2	
ねらい	小児期に特徴的な疾患をもつ対象の看護に必要な看護技術を学ぶ。			
回数	授業内容			授業方法
1回目	1. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護(第1章)			講義
2回目	2. 代謝性疾患と看護(第3章) 1) 糖尿病			講義
3回目	3. 内分泌疾患と看護(第4章): 1)下垂体疾患 2)甲状腺疾患			講義
4回目	4. 免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患と看護(第5章) 1)アレルギー性疾患 2)気管支喘息 3)リウマチ性疾患			講義
5回目	5. 感染症と看護(第6章) 1)ウイルス感染症 2)細菌感染症 3)麻疹・風疹・水痘 4)ムンプス			講義
6回目	6. 呼吸器疾患と看護(第7章) 1) かぜ症候群 2)肺炎			講義
7回目	7. 循環器疾患と看護(第8章) 1)ファロー四徴症 2)川崎病			講義
7.5回目(45回)	8. 消化器疾患と看護(第9章) 1) 形態異常のある疾患 2) 腸重積症 3) 急性胃腸炎			講義
1回目	9. 血液・造血器疾患と看護(第10章) 1) 再生不良性貧血 2) 血友病 3) 輸血療法			講義
2回目	10. 悪性新生物と看護(第11章) 1) 白血病 2) 骨の悪性腫瘍			講義
3回目	11. 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護(第12章) 1) 腎疾患の急性期・慢性期 2) ネフローゼ症候群 3) 尿路感染症			講義
4回目	12. 神経疾患と看護(第13章) 1) けいれん 2) 脳性まひ			講義
5回目	13. 運動器疾患と看護(第14章) 1) 先天性股関節脱臼・先天性内反足 2) 骨折			講義
6回目	14. 皮膚疾患と看護(第15章) 1) アトピー性皮膚炎			講義
7回目	15. 耳鼻咽喉疾患と看護 1) 中耳炎 2) 扁桃摘出術			講義
7回目	16. 精神疾患看護 1) 神経症 2) 自閉症スペクトラム			講義
7回目	17. 事故・外傷と看護			講義
15回目(45分)	終講試験			試験
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 (医学書院)			
評価方法	筆記試験 (1時間【45分間】: 100点) : 50点+50点			

科目	単位	時間	履修学年	講師名
小児看護援助論Ⅲ	1	30	2	
令和5年4月1日				
ねらい	小児期によくみられる健康問題を理解し、看護問題を見出す視点を学ぶ。また小児看護の実際を体験する			
回数	授業内容			授業方法
1回目	講義概要の説明（本単元の進め方）			講義 個人ワーク グループワーク 動画学習会
2回目	小児期によくみられる疾患・健康問題について （グループ疾患分け 調べ学習）			
3回目	学習会 ・小児看護過程の特徴 ・小児ゴードンアセスメント視点 ・小児看護への応用			
4回目	・小児の呼吸器の特徴 ・ステロイドの作用と副作用（影響を理解する） ・関連図作成のポイント ・保育園・小児外来について			
5回目	調べ学習 ・小児期によくみられる疾患・健康問題 ・学習内容の共有			
6回目				個人ワーク
7回目	学習会 ・セルフマネジメント ・プレパレーション ・ディストラクション			講義 グループワーク
8回目	演習準備 ・患児・家族指導案の作成 ・ロールプレイの準備			グループワーク
9回目				
10回目	演習 ・小児の観察・フィジカルアセスメント ・吸入・輸液ポンプ 他			演習
11回目	・その他援助 動画学習会			
12回目	演習 ・患児・家族指導の実践（ロールプレイ） ・振り返り、グループ討議（意見交換、まとめ）			発表（グループ発表 と意見交換）
13回目				
14回目	小児看護のまとめ・小児実習に向けて（90分）			個人ワーク
15回目				
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学①(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②(医学書院)			
評価方法	評価方法：調べ学習・学習会小テスト・その他課題提出物（グループワーク参加率も含む） ※提出日、および具体的な評価点については講義内で別途指定する ※グループワークも多く、客観的な評価をするためにも、欠席に関しては減点が発生します。 ※課題が期限内に提出されても、内容が十分に検討されている物でない場合は評価がつかない場合があります。			
備考	※ロールプレイについては時期が来たらお知らせします。週番の人を中心に、物品・会場準備をしてください。			

科目	単位	時間	履修学年	講師名
母性看護学概論	1	15	2	
ねらい	女性のライフサイクルについての理解を深め、新しい家族の誕生期にある人々が健康生活を営むための看護を学ぶ。			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	母性看護の基盤となる概念 ウイメンズヘルス・リプロダクティブヘルス／ライツ・セクシュアリティ	講義		
2回目	母性看護の対象理解 身体的特徴・女性のライフステージと健康障害	講義		
3回目	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 母子保健統計の動向 母性看護の対象を取り巻く環境	講義		
4回目	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 母性看護に関する組織と法律 母子保健に関連する施策	講義		
5回目	母性の労働に関する法律 女性の労働と健康	講義		
6回目	女性のライフステージ各期における看護 思春期の健康と看護 成熟期の健康と看護 更年期の健康と看護 老年期の健康と看護	講義		
7回目	グループ発表 :リプロダクティブヘルスケア 家族計画・性感染症とその予防・HIVに感染した女性に対する看護 人工妊娠中絶と看護・喫煙女性の健康と看護・ 性暴力を受けた女性に対する看護・児童虐待と看護・ 国際化社会と看護	グループワーク		
8回目	終講試験			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 (医学書院 国民衛生の動向			
評価方法	筆記試験:75点 * 課題提出物・グループワーク・授業参加度:25点			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
母性看護援助論 I	1	30	2	
ねらい	妊娠・分娩・産褥期及び新生児の特徴と、行われる医療について学ぶ			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	1. 胎盤・羊水・臍帯 1) 胎盤・臍帯・卵膜・羊水 2) 胎盤の娩出 3) 常位単盤早期剥離・前置胎盤・癒着胎盤・臍帯の異常	講義		
2回目	2. 早産 1) 妊娠週数・月数・正期産・流早産・過期産 2) 死産・早産・過期産	講義		
3回目	3. 分娩 1) 分娩の3要素、陣痛・産道・娩出物の異常	講義		
4回目	2) 分娩の経過	講義		
5回目	4. 胎児機能不全 1) 胎児心拍モニタリング・BPS、胎児機能不全 2) 急速遂娩	講義		
6回目	5. 産褥 6. 妊娠の異常 多胎妊娠・羊水異常・FGR・Rh不適合妊娠	講義		
7回目	7. 分娩時の異常 分娩時多量出血・産科ショック・産科DIC・弛緩出血・羊水塞栓症 分娩時の裂傷・子宮内反症	講義		
8回目	8. 妊娠高血圧症候群	講義		
9回目	9. 母子感染症	講義		
10回目	10. 妊娠偶発合併症	講義		
11回目	11. 新生児 1) 胎児の呼吸	講義		
12回目	2) 循環の生理	講義		
13回目	看護師国家試験 母性看護学の問題から学ぶ	講義		
14回目	看護師国家試験 母性看護学の問題から学ぶ	講義		
15回目	将来パパやママになりたいあなたへ	講義		
教科書	病気がみえる 10 産科 (メディックメディア)			
評価方法	筆記試験 (1時間 [45分間] : 100点)			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
母性看護援助論Ⅱ	1	30	2	
ねらい	妊娠・分娩期にある対象の看護に必要な看護技術を学ぶ。			
回数	授業内容			授業方法
ねらい	妊娠・分娩期にある対象の看護に必要な看護技術を学ぶ。			
11 時間				
1 回目	1. 妊娠期における看護			講義
2 回目	1) 妊婦の看護目標 2) 健康診査と保健指導			講義
3 回目	3) 日常生活と母親役割獲得への援助			講義
4 回目	4) マイナートラブルへの援助			講義
5 回目	2. 出生前診断を受ける人への看護・遺伝カウンセリング			講義
5.5 回目 (45 分)	3. 不妊治療と看護			講義
12 時間				講義
1 回目	4. 分娩期における看護			
2 回目	1) 安全な分娩 2) 安楽な分娩			
3 回目	3) 分娩第 1 期の活動期 4) 分娩第 1 期活動期終盤			
	5) 分娩第 2 期 6) 分娩第 3・4 期			演習
4 回目	5. 新生児期における看護			
5 回目	1) 新生児の診断 2) 新生児の健康状態			
	3) 出生直後の看護 4) 出生直後から退院時までの看護			
6 回目	6. 援助技術の実際			
	1) 外診 (視診・触診・聴診・計測)			講義
	2) ノン・ストレス・テスト			
	3) 産痛緩和 (補助動作・リラクゼーション)			講義
6 時間				
1 回目	7. 産褥期における看護			
2 回目	1) 褥婦の身体機能の回復と進行性変化への看護			
3 回目	2) 産褥のセルフケアの不足に対する看護			
	3) 育児技術にかかわる看護			
	4) 家族関係再構築への看護			試験
15 回目(45 分)	5) 施設退院後の看護 (育児不安と育児支援)			
	終講試験			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 ②母性看護学各論 (医学書院)			
評価方法	筆記試験 (1 時間【45 分間】: 100 点) : 40 点+40 点+20 点			

科目	単位	時間	履修学年	講師名
母性看護援助論Ⅲ	1	30	2	
ねらい	正常に経過する産褥期および新生児期にある対象の看護に必要な看護技術を学ぶ。			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	母性看護における看護過程の特徴 ウェルネス看護診断・演習事例紹介・データベース	講義 個人ワーク		
2回目	妊娠期の分析・解釈	個人ワーク		
3回目	分娩期の分析・解釈	個人ワーク		
4回目	褥婦：産褥期の分析・解釈 褥婦：産褥期のアセスメント・看護診断	個人ワーク		
5回目	褥婦：看護計画の立案 関連図・看護計画	個人ワーク		
6回目	新生児の情報整理	個人ワーク		
7回目	新生児の分析・看護診断・看護計画	個人ワーク		
8回目	褥婦・新生児の看護技術準備	グループワーク		
9・10回目	褥婦・新生児の看護技術 演習 ①妊婦体験妊娠中の動作②産褥の子宮底長の測定 ③悪露の観察 ④授乳の援助抱き方 ⑤ボトル授乳と排気⑥新生児のV S測定 ⑦おむつ交換 ⑧黄疸の計測⑨光線療法の看護 ⑩K ₂ シロップの服用⑪新生児の計測	グループワーク		
11回目	産褥期の保健指導準備	グループワーク		
12回目	産褥期の保健指導発表 ・産後1ヵ月の過ごし方・産褥の異常・栄養（貧血） ・育児不安のある褥婦・育児サポートが少ない褥婦 ・母子手帳の活用・産褥体操・赤ちゃんの生活 【母乳栄養】・乳頭の正しい含ませ方・母乳不足の見分け方	発表		
13回目	新生児の看護（沐浴・ドライテクニック）	講義		
14回目	新生児の看護の実施（沐浴・ドライテクニック）	演習		
14.5回目	まとめ			
15回目	試験			
教科書	系統看護学 母性看護学各論 医学書院病気が見える⑩産科			
評価方法	看護過程の課題提出（グループワークの参加度を含む）：100点			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
精神看護学概論	1	15	2	
ねらい	精神医療の変遷や精神保健の概念、精神の成り立ちを理解し、心の健康の保持・増進および予防と回復を図るための精神看護のあり方や、精神看護の役割を学ぶ。			
回数	授業内容			授業方法
1回目	1. 精神看護学で学ぶこと 1) 精神看護学の概念 2) 精神看護学の対象と看護師の役割			講義
2回目	2. 精神の健康 1) 精神の健康とは 2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響 3) 心的外傷と回復 4) ストレスとレジリエンス 3. 精神障害という考え方 1) 精神障がい者と法律 2) 疾患モデルと障害モデル 3) 国際生活機能分類の考え方			講義
3回目	4. 心のはたらきと人格の形成 1) 身体の成長と心の発達 2) 心の発達理論 3) 成長各期の心の発達段階 4) 人間関係と心の動き			講義
4回目	5. 社会のなかの精神障がい 1) 諸外国と我が国の精神医療の始まりと現在			講義
5回目	6. 精神医療と法制度			
6回目	1) 精神保健福祉に関する法律、制度の歴史			
7回目	2) 精神医療、地域福祉に関わる法律と制度 3) 精神障害者の生活を支える法律と制度 4) 精神医療と人権 5) 法律・制度における現状と課題			
7.5回目 (45分)	終講試験			試験
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎(医学書院)			
評価方法	筆記試験 80点(40分) 小テスト 20点			
備考	<ul style="list-style-type: none"> 精神看護学の目的や意義、精神に障がいをもつ人に関係する法制度を理解する。 精神的健康は、心身の健康の基本であるため、興味を持って主体的に学ぶ。 講義の進行状況に応じて、グループワークや発表を取り入れる可能性もある。 			

科目	単位	時間	履修学年	講師名
精神看護援助論 I	1	30	2	
ねらい	精神に障害のある対象を理解し、主な精神障害の疾患、症状、検査、治療について学ぶ。 治療的な人間関係の意義、関係の成立と発展の過程、関係における看護の役割を学ぶ。			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	1. 精神疾患の理解 (第5章)	講義 講義 講義・演習 講義		
2回目	2. 精神障害者の抱える症状の理解 (第5章)			
3回目	3. 精神障害の診断と分類 (第5章)			
4回目	1) 統合失調症 2) 気分障害			
5回目	3) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害			
6回目	4) 生理的障害 5) パーソナリティ障害			
7回目	6) 器質性精神障害 等			
8回目	4. 精神科での治療 (第6章)			
9回目	1) 薬物療法 2) 精神療法 3) 環境療法 等			
10回目	5. 精神科におけるケア (第8章)			
11回目	1) ケアの前提、原則、方法			
12回目	2) プロセスレコード			
13回目	3) 患者—看護師関係			
14回目	6. 精神科における看護の役割 (第11章)			
14.5回目 (45分)	7. 精神看護における家族の考え方・その機能 (第4章)	試験		
15回目 (45分)	終講試験			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② (医学書院)			
評価方法	筆記試験 (1時間【45分間】: 100点)			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
精神看護援助論Ⅱ	1	30	2	
ねらい	<p>精神に障害のある対象を理解し、精神の健康問題に直面している対象の、治療過程に応じた看護について学ぶ。</p> <p>疾患や症状によってもたらされる日常生活のしづらさを理解し、必要な援助を学ぶ。</p> <p>精神看護における安全管理について学ぶ。</p> <p>精神科以外での精神看護について学ぶ。</p>			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	1. 精神疾患をもつ対象への看護 (第12章)	講義		
2回目	1) 精神科における身体のケア	講義		
3回目	2) 疾患・症状に応じた看護	講義		
4回目	① 統合失調症、気分障害、神経性障害、身体表現性	講義		
5回目	障害、生理的障害、器質性精神障害、てんかん 等	講義		
6回目	② 不安状態、抑うつ状態、幻覚・妄想状態、思考内	講義		
7回目	容と思路の障害、強迫障害 等	講義		
8回目	3) 診察・検査及び治療に伴う看護	講義		
9回目		講義		
10回目	2. 精神看護における安全管理 (第10章, 13章)	講義		
	1) 安全な環境とリスクマネジメント			
11回目	3. 回復を助ける援助技術 (第9章)	講義		
12回目	1) 治癒と回復	講義		
	2) 精神科におけるリハビリテーション			
13回目	4. 地域における精神看護 (第10章)	講義		
	1) 地域生活の支援			
	2) 退院支援			
	3) 就労支援			
	4) 家族の支援			
14回目	5. リエゾン精神看護 (第14章)	講義		
14.5回目 (45分)	6. 看護師のメンタルヘルス (第16章)	講義		
15回目 (45分)	終講試験	試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 (医学書院)			
評価方法	筆記試験 (1時間【45分間】: 100点)			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
精神看護援助論Ⅲ	1	30	2	
ねらい	精神に障害のある対象の健康問題を分析解釈して、模擬患者の看護計画に基づきロールプレイを行い、看護の実際を体験する。			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	精神看護・精神科看護とは 精神看護領域の看護過程の考え方	講義		
2回目	対象理解のためのコミュニケーション技術 患者-看護者関係の構築とは コミュニケーション技術としての環境・傾聴・情報収集	講義		
3回目	自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード① プロセスレコードの活用目的と方法 プロセスレコードの記述と評価の実際	講義		
4回目	事例を用いた看護過程の展開 ～事例紹介と既習の知識の確認～ 統合失調症の理解とケア	講義・演習		
5回目				
6回目				
7回目	事例を用いた看護過程の展開 ～情報収集と分析・解釈～ フェイスシート、関連図、データベース、仮診断、本診断	講義・演習		
8回目				
9回目	事例を用いた看護過程の展開～病態や症状が日常生活に及ぼす影響～ 診断リスト、看護計画、援助計画	講義・演習 グループワーク		
10回目	事例を用いた看護過程の展開 ～対象の自己決定を支える関わり～ 計画実施	演習 グループワーク		
11回目				
12回目	事例を用いた看護過程の展開 ～看護実践と看護計画の評価・修正～ 修正した計画実施 プロセスレコード② コミュニケーション技術	講義・演習		
13回目	患者-看護者関係の構築とは 環境・傾聴・情報収集	講義・演習 グループワーク		
14回目				
14.5回目 (45分)	精神看護・精神科看護とは 精神看護領域の看護過程の考え方	講義		
15回目 (45分)	対象理解のためのコミュニケーション技術 患者-看護者関係の構築とは コミュニケーション技術としての環境・傾聴・情報収集	試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学①② 精神看護の基礎, 医学書院			
評価方法	看護過程展開に関する記録物の提出 (100点)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識を統合し、演習に取り組むことで分析・解釈を実践して、症状や意味を考え、対象理解に努める。 ・講義内で勧められるように、準備・進度・速度を考え、積極的な質問などで取り組む。 			

科目	単位	時間	履修学年	講師名
医療安全	1	30	2	
ねらい	医療安全を確保するためのヒューマンエラーのメカニズムを理解し、安全を保障する知識と技術を学ぶ。			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	1. 医療安全を学ぶことの大切さ	講義		
2回目	2. 事故防止の考え方を学ぶ	講義		
3回目	3. 看護事故の構造 3) 看護事故防止の考え方	講義		
4回目	4. 患者に投与する業務における事故防止	講義		
5回目	1) 業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止			
6回目	2) 注射業務 3) 内服与薬業務 5) 経管栄養業務			
7回目	6) 与薬に関する起こりやすい事故の例	講義・演習		
8回目	5. 診療の補助業務に伴う事故防止	講義		
	1) 輸血業務 2) 医療機器			
9回目	6. 継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止	講義		
10回目	7. 療養上の世話における事故防止	講義		
11回目	8. 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因	講義		
12回目	9. 医療安全とコミュニケーション	講義		
	10. 看護師の労働安全衛生上の事故防止			
13回目	11. 組織的な安全管理体制への取り組みと我が国の医療安全対策の展望	講義		
14回目	12. KYT(危険予知トレーニング)	講義		
14.5回目 (45分)	13. 事例を用いた KTY の実際	講義・演習		
	14. 私が実践する医療安全	講義		
15回目 (45分)	終講試験	試験		
教科書	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全 (医学書院) 医療安全ワークブック (医学書院)			
評価方法	筆記試験 (1時間【45分間】: 100点)			
備考				

科目	単位	時間	履修学年	講師名
看護の統合と実践 I	1	30	2	
ねらい	安全かつ正しい臨床判断ができるための基礎的知識と技術・態度を学ぶ。			
回数	授業内容			授業方法
1回目	1. 看護の統合と実践とは 1) 医療における安全看護業務のマネジメント 2) リアリティショックが起こる場面			講義
2～4回目	2.療養環境の中で発見されるリスクとは 1) 多様な場面での気づきを看護につなげる重要性 2) ベッド周りの安全について観察演習			講義・演習
5～6回目	3.治療検査における看護 1) 生体検査 2) 造影検査 3) 放射線を使用する検査			講義
7～8回目	4. 画像診断の知識とアセスメント 1) X-P 2) CT 3) 血管造影 4) PET 5) SPECT 6) エコー			演習
9～14回目	5. 医療事故が起こりやすい看護技術 1) 点滴静脈内注射の薬剤準備・輸液管理(滴下数の計算・調節) 2) 輸液ポンプ、シリンジポンプで起きやすい事故 3) 人工呼吸器の接続、挿管チューブの仕組みと管理について 4) 酸素ポンベの取り扱いと残量計算 5) 低圧持続吸引機の注意点			講義・演習
14.5回目 (45分)	まとめ			
15回目 (45分)	終講試験			試験
教科書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II (医学書院) 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全 (医学書院) 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理 (医学書院) 医療安全ワークブック (医学書院)			
評価方法	筆記試験：100点(45分間)			
備考 メッセージ				